

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会認定
家庭医療後期研修プログラム認定申請書
(改訂家庭医療後期研修プログラムの認定に関する細則に基づくもの)

25 年 9 月 22 日

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会
理 事 長 殿

以下に記載した内容で、貴学会認定家庭医療後期研修プログラムとして認定していただけますよう申請いたします。

申請者*署名 (自署) 松下 明

*申請者はプログラム責任者になる予定の方です。

*電子ファイルで提出し、このページのみ署名の上郵送またはスキャンファイルで送付して下さい。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）
岡山県全域 地域を支え地域を科学する 家庭医療後期研修プログラム

2. プログラム責任者			
氏名	松下明	指導医認定番号	2013-117
所属・役職	社会医療法人清風会 岡山家庭医療センター 奈義ファミリークリニック 所長		
所在地・連絡先	住所 〒708-1323 岡山県勝田郡奈義町豊沢 292-1 電話 0868-36-3012 FAX 0868-36-3435 E-mail akimat@mb.infoweb.ne.jp		
連絡担当者氏名*・役職	* プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合のみ記載		
連絡先*	電話	FAX	
	E-mail		

3. 後期研修医定員
1年あたり（6）名 （×研修期間年数＝総定員18名）
※総合診療専門研修ⅠおよびⅡにおいて、常勤の要綱28条に定める認定指導医を、その部署で同時に研修する後期研修医3名に対して1名以上配置できる人数に留めること。

4. プログラムの期間
（ 3 ）年間

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

5. 概要

文部科学省の未来医療研究人材養成拠点形成事業に岡山大学と地域の医療機関が連携して参加し、「地域を支え地域を科学する総合診療医の育成」プロジェクトが採択された。

岡山県全域を5つのエリア（①県南東部エリア、②県南西部エリア、③県北東部エリア、④県北中央部エリア、⑤県北西部エリア）に分け、教育リソースの多い①岡山県南東部・②県南西部・③県北東部と、教育リソースの少ない④岡山県北中央部・⑤県北西部をバランスよく組み合わせることで、岡山県全域で良質な家庭医療後期研修を提供する新しいプログラムを開始する。

各エリアの研修の特徴は以下のとおりである。①②：都市型地域での研修（家庭医療研修、県南部教育病院での総合診療・内科・小児科・救急研修と選択研修として認知症研修、在宅専門クリニック研修、緩和ケア研修）、③④⑤：中山間部地域での研修（家庭医療研修、総合診療・リハビリ研修、県北部中核病院での内科・小児科・救急研修）。

これにより地域偏在の大きい岡山県北部の地域医療を支え、質の高い後期研修を提供し、教育リソースの少ないエリアの指導医養成や指導医支援も行う。また、同プロジェクトのE-Learningを駆使した地域での研究支援（PhD/MPHコース）との相乗効果で「地域を支え地域を科学する総合診療医の育成」を行う予定である。（添付図も参照）

<目標> 患者中心の医療・家族志向のケア・地域包括医療を実践し、年齢・性別に関わらず多くの健康問題に取り組み、包括的で継続的なプライマリ・ケアを効率よく提供できる家庭医を養成する。

<特徴> 上記の概念を統合する生物・心理・社会（Bio-Psycho-Social）モデルを重視した研修を行う。生物医学の修得と心理・社会的な医療の習得を、地域の病診連携の枠組みにおいて、同時進行で行う。

岡山県南部と岡山県北部の医療機関の特徴を生かしながら、医師や教育資源の少ない、④岡山県北中央部・⑤岡山県北西部を重点的に指導医のサポートを行い、後期研修の主軸（必須期間）に置くことで、地域のニーズを満たしつつ、充実した研修が行えるような工夫を行う。

モデルとなるローテーション例

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	小児科 津山中央病院 (③県北東部)			救急部 津山中央病院 (③県北東部)			総合診療研修Ⅰ 岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック (③県北東部)					
2年目	総合診療研修Ⅰ 岡山家庭医療センター奈義ファミリークリニック (③県北東部)						総合診療研修ⅠⅠ 金田病院 (④県北中央部)					
3年目	総合診療研修ⅠⅠ 岡山大学病院総合内科 (①県南東部)						内科 岡山市民病院内科 (①県南東部)					

上記はあくまでも例であり、組み合わせは多様に存在する（①③⑤、②⑤など）。全体のマネージメントをプログラム責任者が行い、各医療機関での特徴ある研修を通して、質の高い家庭医療後期研修を提供する。

プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (12) カ月			総合診療専門研修Ⅱ (12) カ月			
領域別 研修	内科 (6) カ月	小児科 (3) カ月	救急科 (3) カ月	その他 () カ月			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-1. 総合診療専門研修 I	
研修施設名 1	奈義ファミリークリニック 診療科名 (内科・小児科)
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 病院病床数 (0) 床 診療科病床数 (0) 床
総合診療専門研修 I における研修期間	(6-12) カ月
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
研修期間の分割について具体的に記入してください	
指導医氏名 1	松下明 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号 : 2013-117) <input type="checkbox"/> 無
指導医氏名 2	藤谷直明 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号 : H25.7 専門医取得済み 指導医申請中) <input type="checkbox"/> 無
指導医氏名 3	賀来敦 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号 : H25.7 専門医取得済み 指導医申請中) <input type="checkbox"/> 無
指導医氏名 4	松坂英樹 <input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号 : 2012-72) <input type="checkbox"/> 無
※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること	
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))	
ケアの内容	
<input checked="" type="checkbox"/> 外来診療 : 生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療 : 在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア : 学校医、地域保健活動などに参加	
施設要件	
<input checked="" type="checkbox"/> 患者層 : 研修医の経験する症例は、学童期以下が 5%以上、後期高齢者が 10%以上である。 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※下記に具体例を記入ください)	
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保 : 24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (訪問診療患者は 24 時間宅直体制を提供、外来患者は法人内・外の連携病院で対応)	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア : 一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (クリニックでの継続外来と訪問診療を通して、家族単位のかかりつけ医としての継続性を理解する)	
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア : 一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (0 歳から 100 歳までの幅広い急性期・慢性期ケア、予防ケアに取り組むと同時に在宅緩和ケアも行う)	
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携 : 必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (第 3 次医療機関との連携とともに、地域ケア会議や在宅ミーティングで介護福祉サービスとも連携する)	
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア : 様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略 (電子カルテの家族図で家族情報を管理しながら、家族構成員全体の健康管理に責任を持てる診療体制を提供)	
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア : 受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略 (地域枠の研修を通して、地域社会における家庭医の役割を知り、通年のプロジェクトを通して成果を上げる)	
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療 : 訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 具体的な体制と方略 (グループで訪問診療を行い、夜間休日を含めた宅直体制で急変時や看取りの臨時住診も積極的に行う)	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

週当たり研修日数：(4) 日	
総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	外来研修を1-数か月単位で行う（整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など）
日数	1日/週
6-1. 総合診療専門研修Ⅰ	
研修施設名2	湯郷ファミリークリニック 診療科名（ 内科・小児科 ）
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 病院病床数（ 0 ）床 診療科病床数（ 0 ）床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	（ 6-12 ）カ月
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
研修期間の分割について具体的に記入してください	
指導医氏名1	佐古篤謙 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有（認定番号：H25.7 専門医取得済み 指導医申請中 ） <input type="checkbox"/> 無
指導医氏名2	大門友博 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有（認定番号：2012-92 ） <input type="checkbox"/> 無
指導医氏名3	玉井友里子 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有（認定番号：専門医取得済み 指導医申請中 ） <input type="checkbox"/> 無
指導医氏名4	田原正夫 <input type="checkbox"/> 常勤 <input checked="" type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有（認定番号：2012-44 ） <input type="checkbox"/> 無
※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること	
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））	
ケアの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加	
施設要件 <input checked="" type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。（※下記に具体例を記入ください） （ ）	
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 （訪問診療患者は24時間在宅直体制を提供、外来患者は法人内・外の連携病院で対応）	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 （クリニックでの継続外来と訪問診療を通して、家族単位のかかりつけ医としての継続性を理解する）	
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 （0歳から100歳までの幅広い急性期・慢性期ケア、予防ケアに取り組むと同時に在宅緩和ケアも行う）	
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 （第3次医療機関との連携とともに、地域ケア会議や在宅ミーティングで介護福祉サービスとも連携する）	
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略 （電子カルテの家族図で家族情報を管理しながら、家族構成員全体の健康管理に責任を持てる診療体制を提供）	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略 (地域枠の研修を通して、地域社会における家庭医の役割を知り、通年のプロジェクトを通して成果を上げる)</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 具体的な体制と方略 (グループで訪問診療を行い、夜間休日を含めた在宅直体制で急変時や看取りの臨時往診も積極的に行う)</p>	
週当たり研修日数：(4) 日	
総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	外来研修を1-数か月単位で行う(整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など)
日数	1日/週
6-1. 総合診療専門研修Ⅰ	
研修施設名3	津山ファミリークリニック 診療科名(内科・小児科)
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院 病院病床数(0) 床 診療科病床数(0) 床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	(6-12) カ月
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
研修期間の分割について具体的に記入してください	
指導医氏名1	大倉佳宏 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有(認定番号：専門医取得済み 指導医申請中) <input type="checkbox"/> 無
指導医氏名2	村田亜紀子 <input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有(認定番号：2012-2) <input type="checkbox"/> 無
指導医氏名3	<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有(認定番号：) <input type="checkbox"/> 無
※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること	
要件(各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))	
<p>ケアの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>	
<p>施設要件 <input checked="" type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。 <input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※下記に具体例を記入ください) ()</p>	
<p>■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (訪問診療患者は24時間在宅直体制を提供、外来患者は法人内・外の連携病院で対応)</p>	
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (クリニックでの継続外来と訪問診療を通して、家族単位のかかりつけ医としての継続性を理解する)</p>	
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (0歳から100歳までの幅広い急性期・慢性期ケア、予防ケアに取り組むと同時に在宅緩和ケアも行う)</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (第3次医療機関との連携とともに、地域ケア会議や在宅ミーティングで介護福祉サービスとも連携する)</p>	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略 (電子カルテの家族図で家族情報を管理しながら、家族構成員全体の健康管理に責任を持てる診療体制を提供)</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略 (地域枠の研修を通して、地域社会における家庭医の役割を知り、通年のプロジェクトを通して成果を上げる)</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 具体的な体制と方略 (グループで訪問診療を行い、夜間休日を含めた宅直体制で急変時や看取りの臨時往診も積極的に行う)</p>	
週当たり研修日数：(4) 日	
総合診療専門研修 I の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	外来研修を 1 - 数か月単位で行う (整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など)
日数	1 日/週

6-1. 総合診療専門研修 I			
研修施設名 4	哲西町診療所	診療科名 (内科・小児科・放射線科)	
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	病院病床数 (0) 床 診療科病床数 (0) 床	
総合診療専門研修 I における研修期間		(6 - 1 2) カ月	
研修期間の分割		<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください			
指導医氏名 1	鈴木忠広	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号 : 2012-274) <input type="checkbox"/> 無		
指導医氏名 2	佐藤勝	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号 : 認定医取得済み 指導医申請中) <input type="checkbox"/> 無		
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号 :) <input type="checkbox"/> 無		
※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること			
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))			
ケアの内容			
<p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>			
施設要件			
<p>■患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が 5%以上、後期高齢者が 10%以上である。</p> <p><input type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※下記に具体例を記入ください)</p> <p>()</p>			
<p>■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (時間外休日は市役所の日当直が窓口となり、24 時間 3 6 5 日医師と連絡が取れるよう対応している)</p>			
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (診療所での継続外来と訪問診療を通して、家族単位のかかりつけ医としての継続性を理解する)</p>			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (0歳から100歳までの幅広い急性期・慢性期ケア、予防ケアに取り組むと同時に在宅緩和ケアも行う)</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (第3次医療機関との連携とともに、地域ケア会議や在宅ミーティングで介護福祉サービスとも連携する)</p>	
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略 (家族図で家族情報を管理しながら、家族構成員全体の健康管理に責任を持てる診療体制を提供する)</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略 (定期的な健康講座を各地区で開き、医療者が病院の外に出て活動する。)</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 具体的な体制と方略 (グループで訪問診療を行い、夜間休日を含めた宅直体制で急変時や看取りの臨時往診も積極的に行う)</p>	
週当たり研修日数：(4) 日	
総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	外来研修を1-数か月単位で行う(整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など)
日数	1日/週

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ			
研修施設名 5	安田内科医院	診療科名 (内科)	
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	病院病床数 (0) 床 診療科病床数 (0) 床	
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間		(6-12) カ月	
研修期間の分割		<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください			
指導医氏名 1	安田英己	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号：認定医取得済み 指導医申請中) <input type="checkbox"/> 無		
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号：) <input type="checkbox"/> 無		
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号：) <input type="checkbox"/> 無		
※常勤指導医を確保できない場合、別紙 <u>指導医の特例についての申請書</u> を添付すること			
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))			
ケアの内容			
<p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>			
施設要件			
<input type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※下記に具体例を記入ください) (比率は満たしていないが、幼児期・学童期の患者を断らず受入れ、予防接種など予防活動も積極的に行う)			
<p>■アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (訪問診療患者は24時間宅直体制を提供、外来患者は法人内・外の連携病院で対応)</p>			

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (クリニックでの継続外来と訪問診療を通して、家族単位のかかりつけ医としての継続性を理解する)</p>	
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (0歳から100歳までの幅広い急性期・慢性期ケア、予防ケアに取り組むと同時に在宅緩和ケアも行う)</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (第3次医療機関との連携とともに、在宅ミーティングで介護福祉サービスとも連携する)</p>	
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略 (家族図で家族情報を管理しながら、家族構成員全体の健康管理に責任を持てる診療体制を提供)</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略 (地域枠の研修を通して、地域社会における家庭医の役割を知り、通年のプロジェクトを通して成果を上げる)</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 具体的な体制と方略 (訪問診療を行い、清輝橋グループで夜間休日を含めた宅直体制、急変時や看取りの臨時往診も行う)</p>	
<p>週当たり研修日数：(4) 日</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数</p>	
内容	外来研修を1-数か月単位で行う(整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など)
日数	1日/週

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ		
研修施設名 6	佐藤医院	診療科名 (内科)
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	病院病床数 (0) 床 診療科病床数 (0) 床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間		(6-12) カ月
研修期間の分割		<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名 1	佐藤涼介	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号：認定医取得済み 指導医申請中) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号：) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号：) <input type="checkbox"/> 無	
※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
<p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>		
施設要件		
<p><input type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。</p> <p>■上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※下記に具体例を記入ください) (比率は満たしていないが、幼児期・学童期の患者を断らず受入れ、予防接種など予防活動も積極的に行う)</p>		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>■アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (訪問診療患者は24時間在宅直体制を提供、外来患者は法人内・外の連携病院で対応)</p>	
<p>■継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (クリニックでの継続外来と訪問診療を通して、家族単位のかかりつけ医としての継続性を理解する)</p>	
<p>■包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (0歳から100歳までの幅広い急性期・慢性期ケア、予防ケアに取り組むと同時に在宅緩和ケアも行う)</p>	
<p>■多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (第3次医療機関との連携とともに、地域ケア会議や在宅ミーティングで介護福祉サービスとも連携する)</p>	
<p>■家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略 (家族図で家族情報を管理しながら、家族構成員全体の健康管理に責任を持てる診療体制を提供)</p>	
<p>■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略 (地域枠の研修を通して、地域社会における家庭医の役割を知り、通年のプロジェクトを通して成果を上げる)</p>	
<p>■在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 具体的な体制と方略 (訪問診療を行い、清輝橋グループで夜間休日を含めた在宅直体制、急変時や看取りの臨時往診も行う)</p>	
<p>週当たり研修日数：(4) 日</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数</p>	
内容	外来研修を1-数か月単位で行う(整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など)
日数	1日/週

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ		
研修施設名 7	片岡内科医院	診療科名 (内科)
施設情報	<input checked="" type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 病院	病院病床数 (0) 床 診療科病床数 (0) 床
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間	(6-12) カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名 1	片岡廉	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (認定番号： 認定医取得済み 指導医申請中) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号：) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有 (認定番号：) <input type="checkbox"/> 無	
※常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (■のように))		
<p>ケアの内容</p> <p>■外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど</p> <p>■訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事</p> <p>■地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加</p>		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

施設要件	
<input type="checkbox"/> 患者層：研修医の経験する症例は、学童期以下が5%以上、後期高齢者が10%以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 上記の要件を満たさないが、他の方法で研修を補完している。(※下記に具体例を記入ください) (比率は満たしていないが、幼児期・学童期の患者を断らず受入れ、予防接種など予防活動も積極的に行う)	
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (訪問診療患者は24時間在宅直体制を提供、外来患者は法人内・外の連携病院で対応)	
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (クリニックでの継続外来と訪問診療を通して、家族単位のかかりつけ医としての継続性を理解する)	
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (0歳から100歳までの幅広い急性期・慢性期ケア、予防ケアに取り組むと同時に在宅緩和ケアも行う)	
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (第3次医療機関との連携とともに、地域ケア会議や在宅ミーティングで介護福祉サービスとも連携する)	
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な体制と方略 (家族図で家族情報を管理しながら、家族構成員全体の健康管理に責任を持てる診療体制を提供)	
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な体制と方略 (地域枠の研修を通して、地域社会における家庭医の役割を知り、通年のプロジェクトを通して成果を上げる)	
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。 具体的な体制と方略 (訪問診療を行い、清輝橋グループで夜間休日を含めた在宅直体制、急変時や看取りの臨時往診も行う)	
週当たり研修日数：(4) 日	
総合診療専門研修Ⅰの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	外来研修を1-数か月単位で行う(整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など)
日数	1日/週

※研修施設が3箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ		
研修施設名1	岡山大学病院	診療科名(総合内科)
施設情報	病院病床数(849)床	診療科病床数(5)床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6-12)カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名1	大塚文男	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有(認定番号:H25.11に認定医受験予定) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名2	片岡仁美	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有(認定番号:認定医取得済み 指導医申請中) <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有(認定番号:) <input type="checkbox"/> 無	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること
要件（各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））
ケアの内容 ■病棟診療： 病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 ■外来診療： 臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。
施設要件 ■一般病床を有する ■救急医療を提供している
病棟診療：以下の全てを行っていること ■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略 （虚弱高齢者ではCGAを意識したゴール設定と退院後の生活を意識したケアを行う）
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 （全体像を把握したうえで、優先順位づけを行い、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う）
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 （多臓器にわたる問題のうち、臓器別専門医との連携が必要な症例ではスムーズなコミュニケーションを図る）
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 （すべての患者に生物・心理・社会アプローチを心がけ、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う）
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 （高齢者のケアでは緩和ケアのアプローチを常に意識し、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う）
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 （入院と同時に退院後の生活をイメージして、ADL/IADL/認知機能に応じたゴール設定を考える）
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 （訪問診療担当者との密な連携において、必要な時に十分なバックアップができる体制を整える）

外来診療：以下の診療全てを行っていること ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 （救急外来や初診外来を通して、非選択的にさまざまな問題に対応する診療を行う）
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 （臓器別ではない、多種多様な問題を初診患者として数多く対応し、鑑別診断や臨床推論を生かした診療を行う）
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 （慢性・急性疾患を問わず、よくある症候と疾患に多く触れ、的確な診療を行っていく）
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 （日々の診療の振り返りやケースカンファレンスを通して常に臨床推論やEBMの能力を高めていく）
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略 （外来診療においても複数の健康問題に対して、全体を眺め、優先度付けを行い、バランスのとれた診療を行う）
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略 （診断困難な状況をチャレンジな病態にとらえ、通常より深いレベルの臨床推論や専門医との連携を工夫する）
週当たり研修日数：（ 4 ）日

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	総合診療研修Ⅰの継続や他科外来研修（整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など）
日数	1日/週

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ		
研修施設名2	日本原病院	診療科名（ 内科 ）
施設情報	病院病床数（ 60 ）床	診療科病床数（ 25 ）床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	（ 6-12 ）カ月	
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名1	森崇文	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input checked="" type="checkbox"/> 有（認定番号：認定医取得済み 指導医申請中 ） <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名2		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有（認定番号：認定医取得済み 指導医申請中 ） <input type="checkbox"/> 無	
指導医氏名3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤
学会認定指導医資格	<input type="checkbox"/> 有（認定番号： ） <input type="checkbox"/> 無	
常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件（各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす（ <input checked="" type="checkbox"/> のように））		
ケアの内容		
<input checked="" type="checkbox"/> 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。 <input checked="" type="checkbox"/> 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。		
施設要件		
<input type="checkbox"/> 一般病床を有する（制度上は療養型病棟だが25床は亜急性期入院病棟として運用している）		
<input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している		
病棟診療：以下の全てを行っていること		
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略 （虚弱高齢者ではCGAを意識したゴール設定と退院後の生活を意識したケアとリハビリテーションを行う）		
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 （全体像を把握したうえで、優先順位づけを行い、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う）		
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 （多臓器にわたる問題のうち、臓器別専門医との連携が必要な症例ではスムーズなコミュニケーションを図る）		
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 （すべての患者に生物・心理・社会アプローチを心がけ、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う）		
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 （高齢者のケアでは緩和ケアのアプローチを常に意識し、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う）		
<input checked="" type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 （入院と同時に退院後の生活をイメージして、ADL/IADL/認知機能に応じたゴール設定を考える）		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (訪問診療担当者との密な連携において、必要な時に十分なバックアップができる体制を整える)</p>
--

<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (救急外来や初診外来を通して、非選択的にさまざまな問題に対応する診療を行う)</p>				
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 (臓器別ではない、多種多様な問題を初診患者として数多く対応し、鑑別診断や臨床推論を生かした診療を行う)</p>				
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 (慢性・急性疾患を問わず、よくある症候と疾患に多く触れ、的確な診療を行っていく)</p>				
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 (日々の診療の振り返りやケースカンファレンスを通して常に臨床推論やEBMの能力を高めていく)</p>				
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略 (外来診療においても複数の健康問題に対して、全体を眺め、優先度付けを行い、バランスのとれた診療を行う)</p>				
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略 (診断困難な状況をチャレンジングな病態ととらえ、通常より深いレベルの臨床推論や専門医との連携を工夫する)</p>				
<p>週当たり研修日数：(4) 日</p>				
<p>総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数</p>				
<table border="1"> <tr> <td>内容</td> <td>総合診療研修Ⅰの継続や他科外来研修(整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など)</td> </tr> <tr> <td>日数</td> <td>1日/週</td> </tr> </table>	内容	総合診療研修Ⅰの継続や他科外来研修(整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など)	日数	1日/週
内容	総合診療研修Ⅰの継続や他科外来研修(整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など)			
日数	1日/週			

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ		
研修施設名3	金田病院	診療科名(内科)
施設情報	病院病床数(172)床	診療科病床数(100)床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6-12) カ月	
研修期間の分割	■なし □あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名1	水島孝明	■常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	■有(認定番号: 認定医取得済み 指導医申請中) □無	
指導医氏名2		□常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	□有(認定番号:) □無	
指導医氏名3		□常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	□有(認定番号:) □無	
常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件(各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす(■のように))		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

ケアの内容	
<p>■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題(心理・社会・倫理的問題を含む)を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。</p> <p>■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。</p>	
施設要件	
<p>■一般病床を有する</p> <p>■救急医療を提供している</p>	
<p>病棟診療：以下の全てを行っていること</p> <p>■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略 (虚弱高齢者ではCGAを意識したゴール設定と退院後の生活を意識したケアを行う)</p>	
<p>■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (全体像を把握したうえで、優先順位づけを行い、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う)</p>	
<p>■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (多臓器にわたる問題のうち、臓器別専門医との連携が必要な症例ではスムーズなコミュニケーションを図る)</p>	
<p>■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (すべての患者に生物・心理・社会アプローチを心がけ、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う)</p>	
<p>■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (高齢者のケアでは緩和ケアのアプローチを常に意識し、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う)</p>	
<p>■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (入院と同時に退院後の生活をイメージして、ADL/IADL/認知機能に応じたゴール設定を考える)</p>	
<p>■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (訪問診療担当者との密な連携において、必要な時に十分なバックアップができる体制を整える)</p>	

<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること</p> <p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 (救急外来や初診外来を通して、非選択的にさまざまな問題に対応する診療を行う)</p>	
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 (臓器別ではない、多種多様な問題を初診患者として数多く対応し、鑑別診断や臨床推論を生かした診療を行う)</p>	
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 (慢性・急性疾患を問わず、よくある症候と疾患に多く触れ、的確な診療を行っていく)</p>	
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 (日々の診療の振り返りやケースカンファレンスを通して常に臨床推論やEBMの能力を高めていく)</p>	
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略 (外来診療においても複数の健康問題に対して、全体を眺め、優先度付けを行い、バランスのとれた診療を行う)</p>	
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略 (診断困難な状況をチャレンジングな病態ととらえ、通常より深いレベルの臨床推論や専門医との連携を工夫する)</p>	
週当たり研修日数：(4) 日	
総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	総合診療研修Ⅰの継続や他科外来研修（整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など）
日数	1日/週

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

--	--

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ		
研修施設名 4	成羽病院	診療科名 (内科)
施設情報	病院病床数 (96) 床	診療科病床数 (54) 床
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間	(6-12) カ月	
研修期間の分割	■なし □あり	
研修期間の分割について具体的に記入してください		
指導医氏名 1	鶴見尚和	■常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	■有 (認定番号 : 認定医取得済み 指導医申請中) □無	
指導医氏名 2	安井稔博	■常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	■有 (認定番号 : 認定医取得済み 指導医申請中) □無	
指導医氏名 3		□常勤 □非常勤
学会認定指導医資格	□有 (認定番号 :) □無	
常勤指導医を確保できない場合、別紙指導医の特例についての申請書を添付すること		
要件 (各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
■病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題 (心理・社会・倫理的問題を含む) を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。		
■外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。		
施設要件		
■一般病床を有する		
■救急医療を提供している		
病棟診療：以下の全てを行っていること		
■高齢者 (特に虚弱) ケア 具体的な体制と方略 (虚弱高齢者ではCGAを意識したゴール設定と退院後の生活を意識したケアを行う)		
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略 (全体像を把握したうえで、優先順位づけを行い、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う)		
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略 (多臓器にわたる問題のうち、臓器別専門医との連携が必要な症例ではスムーズなコミュニケーションを図る)		
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略 (すべての患者に生物・心理・社会アプローチを心がけ、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う)		
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略 (高齢者のケアでは緩和ケアのアプローチを常に意識し、多職種でのチームアプローチを意識したケアを行う)		
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略 (入院と同時に退院後の生活をイメージして、ADL/IADL/認知機能に応じたゴール設定を考える)		
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制 (訪問診療担当者との密な連携において、必要な時に十分なバックアップができる体制を整える)		

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>外来診療：以下の診療全てを行っていること ■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略 （救急外来や初診外来を通して、非選択的にさまざまな問題に対応する診療を行う）</p>	
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略 （臓器別ではない、多種多様な問題を初診患者として数多く対応し、鑑別診断や臨床推論を生かした診療を行う）</p>	
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略 （慢性・急性疾患を問わず、よくある症候と疾患に多く触れ、的確な診療を行っていく）</p>	
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略 （日々の診療の振り返りやケースカンファレンスを通して常に臨床推論やEBMの能力を高めていく）</p>	
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略 （外来診療においても複数の健康問題に対して、全体を眺め、優先度付けを行い、バランスのとれた診療を行う）</p>	
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略 （診断困難な状況をチャレンジングな病態にとらえ、通常より深いレベルの臨床推論や専門医との連携を工夫する）</p>	
<p>週当たり研修日数：（ 4 ）日</p>	
<p>総合診療専門研修Ⅱの研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数</p>	
内容	総合診療研修Ⅰの継続や他科外来研修（整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など）
日数	1日/週

※研修施設が3箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-3. 領域別研修：内科	
研修施設名1	津山中央病院
診療科名（内科）	
病院病床数	（ 535 ）床
領域別研修（内科）における研修期間	（ 6 ）カ月
指導医氏名1	藤木 茂篤
臨床経験年数	（ 34 ）年
有する認定医・専門医資格	日本内科学会指導医・日本消化器病学会指導医
要件（各項目を満たすとき、口を塗りつぶす（■のように））	
ケアの内容	
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。	
施設要件	
■医師法第16条の2および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。	
■内科病床数が50床以上ある。	（ 150 ）床
■内科常勤医が5名以上いる。	（ 9 ）名
■後期研修プログラムの認定に関する細則第9条(5)に定める指導医が病院全体として3名以上いる。 （ 3 ）名	
週当たり研修日数：（ 4 ）日	
領域別研修（内科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数	
内容	総合診療研修Ⅰの継続や他科外来研修（整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など）
日数	1日/週

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

6-3. 領域別研修：内科		
研修施設名 2	岡山市民病院	診療科名 (内科)
病院病床数	(405) 床	
領域別研修 (内科) における研修期間		(6) カ月
指導医氏名 1	今城健二	
臨床経験年数	(30) 年	
有する認定医・専門医資格	日本内科学会指導医	
要件 (各項目を満たすとき、口を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。		
施設要件		
■医師法第 16 条の 2 および関係省令で定める基幹型または協力型臨床研修病院である。		
■内科病床数が 50 床以上ある。	(100) 床	
■内科常勤医が 5 名以上いる。	(10) 名	
■後期研修プログラムの認定に関する細則第 9 条(5)に定める指導医が病院全体として 3 名以上いる。 (3) 名		
週当たり研修日数：(4) 日		
領域別研修 (内科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数		
内容	総合診療研修 I の継続や他科外来研修 (整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など)	
日数	1 日/週	

※研修施設が 3 箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-4. 領域別研修：小児科		
研修施設名 1	津山中央病院	診療科名 (小児科)
病院病床数	(535) 床	診療科病床数 (30) 床
領域別研修 (小児科) における研修期間		(3) カ月
指導医氏名 1	梶俊策	
臨床経験年数	(18) 年	
有する専門医資格	日本小児科学会専門医	
要件 (各項目の全てを満たすとき、口を塗りつぶす (■のように))		
ケアの内容		
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的によく遭遇する症候や疾患の対応を経験する。		
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1 次救急を中心に経験する。		
■病棟診療：日常的によく遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。		
施設要件		
■小児領域における基本能力 (診断学、治療学、手技等) が修得できる。		
■小児科常勤医がいる。	() 名	
週当たり研修日数：(4) 日		
領域別研修 (小児科) の研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数		
内容	総合診療研修 I の継続や他科外来研修 (整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など)	
日数	1 日/週	

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

※研修施設が3箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載すること。

6-5. 領域別研修：救急科			
研修施設名1	津山中央病院		
病院病床数	(535) 床	年間救急搬送件数	(4300) 件
指導医氏名1	森本直樹		
要件（各項目を満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））			
ケアの内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
施設要件 （下記のいずれか）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
□救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			
指導医要件			
■救急科専門医あるいは救急に専従する医師			
ブロック研修、兼任研修のいずれかを選択し、□を塗りつぶす（■のように）			
■ブロック研修			
→領域別研修（救急科）における研修期間（ 3 ）カ月			
□兼任研修			
→どの研修と組み合わせるか（ ）			
週あたり研修日数（ ）日、研修期間（ ）カ月			
週あたり研修日数：（ 4 ）日			
領域別研修（救急科）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる研修の内容とその日数			
内容	総合診療研修Ⅰの継続や他科外来研修（整形外科・皮膚科・精神科・眼科・耳鼻科・泌尿器科など）		
日数	1日/週		

6-6. 領域別研修：その他						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	週あたり 研修日数 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
一般外科	□必修 □選択	□ブロック □兼任	() 日	() カ月		
整形外科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(1) 日	(3) カ月	福井医院 整形外科	福井正尚
精神科/ 心療内科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(1) 日	(3) カ月	希望ヶ丘ホスピタル 精神科	日笠完治
産科婦人科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(1) 日	(2) カ月	赤堀病院 婦人科 大福クリニック	赤堀泰一郎 宮木康成
皮膚科	■必修 □選択	□ブロック ■兼任	(1) 日	(2) カ月	津山中央病院 大澤皮膚科医院	宮本亨 大澤徳哉

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

泌尿器科	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(1) カ月	津山東クリニック 泌尿器科	赤枝輝明
眼科	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(1) カ月	岡本眼科医院	岡本祐二
耳鼻咽喉科	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(1) カ月	津山中央病院 耳鼻科	非常勤医師
放射線科 (診断・撮影)	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日	() カ月		
臨床検査・ 生理検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日	() カ月		
リハビリ テーション	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input checked="" type="checkbox"/> 兼任	(1) 日	(1) カ月	日本原病院	石井雅之
その他 ()	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日	() カ月		
その他 ()	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日	() カ月		

7. 後期研修医の評価方法（研修修了認定の方法も含めて、評価計画等具体的に）
形成的評価 毎日のカルテチェック・隔月振り返り発表・年3回ポートフォリオ発表・年1回直接観察 ・年2回プログラム責任者との面談・360度評価・隔月指導医会議でのフィードバック 総括的評価 In-Training Exam・研修終了時直接観察・360度評価

8. プログラムの質の向上・維持の方法
後期研修医との定期的な面談や後期研修検討委員会からの指導医へのフィードバック 中国ブロックでの他プログラム指導医によるサイトビジットと後期研修医面談